

令和6年度 第6回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）

期日：令和7年2月25日（火）

15：00～17：00

場所：有田工業高校 会議室

1 開 会

2 学校長挨拶

下記4点の内容について説明し、挨拶とした。

- ・6回目の学校運営協議会への委員の出席に対してのお礼
- ・高校入試（一般選抜）の志願状況
- ・ものづくりを取り巻く社会情勢やものづくりの楽しさが子どもたちに伝わっていない現状
- ・本日の報告事項、協議事項、意見交換についてのお願い

3 議事（進行は会長）

(1)説明・報告事項

①「SAGA コラボレーション・スクール（SCS）」に係る事業実施報告書について

説明：主幹教諭

- ・すでに県教育委員会に提出済みの「SAGA コラボレーション・スクール（SCS）」に係る事業実施報告書をもとに、1. 取組テーマ、2. 取組の概要、3. 取組の経緯、4. 取組の内容、5. 取組の成果、6. 課題及び改善点、7. 今後の展望について説明した。

②学校魅力化評価システムアンケート（生徒）の結果について

説明：主幹教諭

- ◇3か年分の学校魅力化評価システムアンケート100問の結果について、下記の内容をピックアップし、とくに地域との連携に関係する項目について説明した。

- ①本校のグラデュエーション・ポリシー及び学校教育目標に掲げている内容に該当するアンケートの質問項目のうち、全国平均より高かった項目
 - ・51. 自分にはよいところがあると思う
 - ・67. 学校で学習することで自分ができることやしたいことが増えている
 - ・39. 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる
 - ・37. うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む
 - ・71. 授業で分からないことについて自分から質問したり分かる人に聞きにいったりした
 - ・74. 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った
 - ・79. まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい
 - ・81. 今の生活全般の満足度
 - ・66. この学校に入ってよかったと思う
 - ・68. 自分の将来について明るい希望を持っている
 - ・86. 自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたい）を持っている
- ②本校のコラボレーション・スクール事業のテーマ及びカリキュラムポリシーに掲げている内容に該当するアンケートの質問項目のうち、全国平均より高かった項目
 - ・6. 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く
 - ・19. 地域から大切にされている雰囲気を感じる

③令和6年度進路状況について

説明：進路指導主事

- ◇今年度の3年生の進路状況について下記の内容について説明した。
 - ・1/3が進学希望、2/3が就職希望である。
 - ・3名の生徒が未定という現状で、現在も就職試験を受けている生徒がいる。
 - ・今年度、1458社からの求人票で総数は2664人。1人あたり約26社の求人が来ている。

④機械科より新たな地域連携についての報告

説明：機械科長

- ・学校運営協議会委員の計らいにより、地元（有田町内）の企業や窯業技術センターの見学ができた。
- ・機械科として、今後は、有田の窯業における機械分野で貢献できる新たな地域連携を考えるきっかけとなった。

(2) 協議事項

① 学校評価（最終評価）について

- ・ 学校関係者評価の意見聴取

説明：主幹教諭

資料 30 ページの学校評価（案）として作成した資料をもとに、年度当初に重点取組と成果目標、具体的取組を作成した校務分掌主任がまとめた達成度 A～D と最終評価のコメントについて説明した。全日制では、今年度は A：5 個、B：5 個であった。昨年度の達成度は、A：6 個、B：3 個であった。

また、資料 31～34 ページの「保護者の学校評価アンケート結果」について説明した。おおむね肯定的な回答結果であった、18 項目のうち昨年度のポイントを超えている項目は 1 つのみで、最もポイントが高かったのは「15. 学校 HP での情報発信」の 3.64 ポイントであった。学校 HP で「まいにち更新」という取組を行っている成果だと考える。

資料 35～38 ページの「教職員の学校評価アンケート結果」について説明した。アンケート 18 項目のうち、昨年度のポイントを超えている項目は 9 項目で、最もポイントが高かったのは、「7. 資格取得やコンテスト」のための補習の取組の充実で 3.53 ポイントであった。

説明：教務主任（定時制）

現在、登校している生徒は 40 名弱。中学校時代に何らかの事情により、中学校の学習は十分達成できてない生徒もいる。様々な面で配慮しながらの取り組みで、目標値も高く設定はできていない関係もあるが、すべて A 評価ということで今年度も出している。

まず、教務から出席率 90%以上目標として掲げていたが、4 月当初は 95%近くの出席率であった。生徒も頑張って登校してきていたが、仕事を始めた生徒もおり、9 月終了時点で出席率 90%以下の月もあった。そういったところで、生徒に対して、担任の先生の個別の声かけや家庭との連絡をこまめにした結果、生徒自身もやっぱり授業を大切にしようとして少しずつ意識できるようになり、現在のところ出席率 92%まで持ち直している。

また、進路関係につきましては、様々な事情を抱えた生徒であることを配慮して指導している状況にある。

先生方の業務改革等の内容も、会議資料のペーパーレス化や、学校の放課後の時間を 1 時間程度取れるような校時の修正を行い、ほかの指導を先生方も余裕を持ててできるような体制作りをしている。先生方の在校時間も短くなっている。

意見①：委員 A

- ・ 昨年に比べ、評価が B に下がった項目が 5 つ、B から A に上がったものが 2 つ。
- ・ 自己評価のため個々の判断による部分はあるが、全体として A の数が減少していることについては、何らかの要因があると考えられる。個別の事例は別として、評価の傾向やその背景について検討が必要ではないかと考える。

意見②：委員 B

- ・ 学校運営協議会関連の書類について、紙での郵送をやめるよう要望しているが、毎回郵送されている。郵送のコストや手間の削減のため、デジタル化を推進し、慣習としての郵送を見直すべきではないか。郵送が必要なものと印刷が必要なものが正しく仕分けられていないので仕分けられたらどうか。

意見③：委員 C

- ・ 部活動の活性化・体力向上に関する評価が B 判定となっているが、部活動の実績（甲子園出場、国スポの活躍）を考慮すると、A 評価でもよいのではないかな。
- ・ 全校マラソン大会の設定時間内の完走者数で評価するのは適切か再考が必要ではないかな。

意見④：委員 D

- ・ 全体的に素晴らしい評価だが、全国平均と比べると低い部分があり、学校としては不安視されている要素もあるのではないかと思います。
- ・ 地域特有の要因により評価が低くなっている可能性があるため、学校単体の評価では課題が見えにくい。先生方の視点から、不安視される要素を整理し示してもらえると議論しやすい。

意見⑤：委員 E

- ・ 健康・体づくりの観点について、全校マラソン大会は天候の影響で活動が厳しい状況になることもあるのではないかな、また、雨などで中止となった場合に判断基準に困るのではないかな。
- ・ 2 点目は、学力向上に関する就職面接です。今年度も実施される予定だが、企業によっては厳しい質問をされることもある。前年度の生徒の報告を参考にし、面接時間の延長などを検討いただけると、子どもたちの自信につながり、就職の可能性が広がると考える。

意見⑥：委員 F

- ・面接指導に参加し、高校生の頑張りを実感したが、実際の就職試験でどれほど役立っているか不安な点がある。
- ・より実践的な指導を行うため、製造業など現場で働く方々の参加を検討してほしい。

意見⑦委員 G

- ・有工会の副会長としての立場だけでなく、製造業の会社の社長として生徒たちの未来を考えている。特に最近、県の業界連合会の副会長として、多くの企業と話をする中で、人材不足、とりわけ若年層の就職者が少ないという課題を痛感している。
- ・先月、大阪の企業を訪問し、魅力的な工場づくりの重要性について経営者たちと意見交換を行ったが、具体的には、工場内にカフェ風の休憩スペースを設置する等、職場環境を改善し、従業員が定着しやすい職場づくりに取り組んでいる企業があった。有田でも同様の取り組みが必要であり、現在、有田町の工業関係者の団体（13 社）と共に、人材確保のための方策を話し合っている。
- ・昨年、有田町の工業関係者の団体と有工の先生方と協力し、生徒向けの工場見学会を開催した。生徒たちが工場設備に関心を持ち、積極的に質問する様子が見られた。今後も継続していきたい。

意見⑧：委員 B

- ・先日、ケーブルテレビで課題研究発表会を視聴し、3 年生の発表レベルの高さに感銘を受けた。特にデザイン科とセラミック科の発表では、産業界では予算がつかず、まだ実現されていない先進的な内容も取り上げられており、大変興味深かった。
- ・しかし、有工のホームページには発表会の実施についての記載はあるものの、詳細な内容までは掲載されていなかった。こうした優れた取り組みをより多くの人がアクセスできるよう、情報公開の方法を検討してはどうか。例えば、ホームページへの詳細掲載や、中学校（約 97 校）への情報提供などが考えられる。については、現状どのように情報を公開しているのか伺いたい。

回答：デザイン科長

- ・今、ケーブルテレビの方で、この課題研究発表会を公開し始めてからもう 10 年ぐらい経ちますけれども放映していただいているのはもっと長いのではないかと思います。以前は学校で全て撮影して全て編集までして完成したものを届けるというとても時間がかかる作業を数年続けてきた。
- ・放映しているコンテンツ自体の方はケーブルテレビが権利を持つというような、複雑な構造のコンテンツになっている。
- ・生徒が課題研究でまとめた資料については、毎年作成し、「課題研究集」を冊子として編纂をしている。80～100 部ぐらい作成しているが、原資が生徒から徴収した課題研究費を使って作成をしているので、中学校に配布するのは控えている。
- ・結構レアな課題研究集になっている。1 つ発展させれば、PDF でそれぞれの研究が全てワンページにまとめたシートで見ることができるので、そういうものを公開していくということは可能である。
- ・発表会を学校で収録して、5 分ぐらいの動画コンテンツはあるので、資料として限定公開でお渡しするような資料として扱っている。
- ・今は、各科の代表生徒の発表会を、学校内で行い、後輩たちに見てもらっている。全ての科が全ての発表を聞くように機会を設けて、各科の勉強の内容をお互いに知る機会も作っている。様々な承認を得て WEB 公開をするなど、なかなか手がけられてないというのは、反省しているところである。

意見⑨：委員 H

- ・評価の方法がストイックすぎると感じる。例えば、7 ページのグラフでは、「中学生におすすめできる」割合が 83.3%から 82.6%に減少しているが、100%の尺度で見れば変化はわずかであり、視覚的な表現の仕方によって大きく減少しているように見えてしまう。他のグラフについても同様の傾向がある。
- ・「おおむね評価できる」という基準について、80%で十分なのか、それとも 85%や 90%を目指すべきなのか、柔軟に考える必要があるのではないかと。
- ・健康づくりの評価基準としてマラソン大会のみに着目するのは適切ではない。スピードよりも「完走できたか」を重視すべきではないか。また、数値の変化についても、生徒の質や学校ごとの特性を考慮し、あまり厳格に評価基準を定めすぎない方が良いと考える。

意見⑩：委員 I

- ・自己評価をすると教員は厳しくなりがちであり、アンケートの質問の仕方によっても数値が大きく変わることがある。例えば、いじめに関する項目では、保護者 91%、職員 90%の回答があったが、90%や 95%という数値はすでにかなり高い水準ではないか。来年度の目標設定についても

再考の余地があるのではないか。

- ・次に、「豊かな心を育む」に関するアンケート結果について、「分かった」と回答した生徒が 95% 以上だったが、これはどのアンケート項目に該当するのか。27 ページでよいのか。また、195 番目の項目は「行動ができています」ことに関する内容であり、「分かった」とは異なる。質問の仕方によって結果が変わる可能性を感じる。
- ・アンケートの質問項目が 100 問設定されているが、これは必ず 100 問にする必要があるのか。

意見⑩：委員 F

- ・定時制の取組が素晴らしいと感じた。中学校に通えなかった生徒たちが、高校で安心して通える環境がある。「ものづくり」が好きな生徒が、4 年間学ぶことができる場所が提供されている。心療内科等のサポートとの連携が個別対応されている点も良い。
- ・都市部に比べて、この地域にはフリースクールが少ない。不登校の子を持つお母さんたちが不安な気持ちを抱えているのではないかと思います。高校にはこういった選択肢があることを広めると、安心できるお母さんが増えるのではないかと考える。そのため、このような取り組みを広く認知してほしいと考える。

4 意見交換（１）SAGA コラボレーション・スクール事業について

説明：事務局

意見交換として、SAGA コラボレーション・スクール事業についてとレジュメには書いておりますが、この時間は、委員のみなさまに自由な意見交換の場としてお願いできればと思っております。

質問：委員 E

- ・田舎から都会への憧れが影響しているのではないかと考えるが、佐賀県から子どもたちが出て行く理由について意見交換をお願いしたい。

意見：委員 F

- ・地元就職について明確な答えは持っていないが、一度外に出ることで地元の魅力に気づくこともあるため、「出て行きたい人は出て行き、戻りたいときに戻れる環境があることが大切」ではないかと考える。
- ・自身の仕事はリモートで続けられたため転職活動の経験はないが、当初転職サイトを利用しながらも、最終的には SNS を通じて仕事のオファーを受け、自営業を続けている。特に IT 系の仕事は地方でも需要があるようである。

意見：委員 B

- ・賃金の問題もあるが、「経験機会の不足」も大きな課題である。
- ・例えば、「日本一の人と働ける」といっても、特定の分野（ろくろや絵付けなど）に限られてしまう。
- ・自身の前職（経営コンサルタント）においては、佐賀には「日本一の人」がいないため、スキルを磨くには県外に出る必要があった。
- ・自己実現の観点からも「スキルの高い人がいない」ことは重要なポイントである。
- ・学校での講演の際にも、「県外に出た方がいい」と伝えている。理由として、多様な職種の人材や高スキルの人材が地元には少ないため。
- ・そのため、県外で経験を積んだ人材が戻ってくる流れを増やすべきである。
- ・地元企業は、そうした人材を活かせる体制を整える必要がある。

意見：委員 A

- ・東京で長くサラリーマン生活を送り、その後、有田に移住した。現在は武雄に住んで 5 年になるが、東京で過ごした時間が長いので、まだ多少の違和感を感じることもある。
- ・さきほど、委員 B のお話にもあったが、私も若いうちはさまざまな経験をすることが重要だと考える。また、無理に引き止めても根本的な流れは変えられないと思う。
- ・そのため、「出ていく人を止める」ことよりも、「来てくれる人を増やす」ことに重点を置くべきではないでしょうか。結果的に、そうした取組が進めば、地域を離れる人も減っていくのではないかと考える。
- ・「出ていく流れを止める」ことにこだわるのではなく、「地域に来てもらう」ための施策に力を入れることが重要ではないか。また、年齢を重ねるにつれて価値観や満足度の基準も変わるため、田舎の良さを実感するのはある程度の年齢に達してからという場合も多いのではないかと考える。そうした点を踏まえ、年齢層に応じたマッチングの仕組みを導入することも一つの手ではないかと考える。

意見：委員 J

- ・3 年間、学校運営協議会の委員として携わられた想いを述べられ、学校運営協議会への恩返しという気持ちを込めて、協議会に出席されている委員の承諾を受けて、今後の学校運営協議会の運営にあたり、単年度のみではなく数年にわたって学校が地域との連携を充実させていくうえで、地域の

ことや地域の動向について詳しい人物を、これまで携わってきた一委員として、今後の学校運営協議会に資する人物について、資料をもとに紹介された。

5 諸連絡

- ・特になし

6 閉 会

◇学校長より閉会の挨拶

本日は様々ご意見をいただき、ありがとうございました。今年度はこれで運営協議会はまだ終了ということになります。お忙しい中に、学校運営協議会にご出席いただきまして本当にありがとうございました。また、令和4年度から、SAGA コラボレーション・スクール事業において、重点校として取り組んでいました。関わっていただいた委員の方々に感謝申し上げます。引き続き温かいご支援をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。